

in Rep. First Sci. Exped. Manch. sect. 4, **2**: 114 fig. 14-11 (1935); M. Popov, Fl. Centr. Sib. **2**: 706 (1959).

*Campanula verticillata* Pallas, Reise **3**: 320, 422, 436, Append. 719 t. G fig. 1 (1776), non Hill (1765).

*Adenophora tetraphylla* (non Fischer) Kitagawa, Lineam. Fl. Mansh. 418 (1939); Fedorov in Fl. URSS **24**: 361 (1957); Baranov in Quart. Journ. Taiwan Mus. **16**: 159 (1963).

*A. triphylla* (Thunberg) De Candolle var. *angustifolia* (Regel) Kitamura in Act. Phytot. Geobot. **10**: 308 (1941) cum f. *princeps* (Korshinsky) Kitamura & f. *pilosa* Kitamura.

*A. radiatifolia* Nakai in Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo **31**: 110 (1952), ut nom. nov.

Nom. Jap. Nioi-syajin (Nakai 1922).

Distr. Dahuria, Mongolia, Amur, Ussuri, Manshuria, Korea & China.

(横浜国立大学学芸学部生物学教室)

□岡見義男：ラン，種類と培養 A5 版 pp. 435 図版写真多数，アート紙刷，東京：誠文堂新光社 4.800 円 (1964 XII). 著者は一昨年物故されたが，永く新宿御苑で洋蘭の栽培，新品種の育成に努めた方で，その方の第一人者であった。いわゆる洋蘭（主として熱帯，亜熱帯産）の代表属 100 をとりあげ，属名の ABC 順に解説をほどこし，著名種を附記したもの。Schlechter の名著 Die Orchideen と似たところがあるが，本書の性格からみて分類学的な急所を望むことは少々無理である。しかし日本だけでなく，世界的に見て栽培にうつされた種がほとんど挙げてあることは，抄録者がアンデスで採集し，数年かかって開花させた *Xylobium* や *Houlletia* などの属や種ものっている位である事からわかる。それによいことは豊富な写真版で，原種はもちろん，適宜に選択された品種の姿がみられるのも大いに参考になる。培養法，栽培史などもついでいて便利である。  
(前川文夫)

□松山庫三：武蔵野の植物 pp. 290+51. 図版 48 葉 地図 1 葉，東京，井上書店 (1965). 1.400 円。地方植物志は今まで島か山を除いては，たいてい行政区画を基礎にしていたが，これは武蔵野という地形面を基準にして扱った点でまことに学問的である。目録はさすがに著者の性格と水準を反映して甚だ高く，その点でも将来へのローカルフロアの基準となるだろう。武蔵野というさして広くもなくまた変化に乏しい地帯によくも 1287 種が自生し，276 種が帰化しているとは，日本のフロアの豊富さを示すものか。本書の後半を占める検索表は苦心の作と見受けるが，方言をも引用し，それが索引にもひかれているなど，細かい心配りがしてある。印刷も美しいし，巻頭の図版も楽しい。武蔵野に限らず，都会を包含する地帯にも充分転用のきくものであって，ひろくおすすめしたい。  
(前川文夫)